

平成 31 年度（2019）事業報告書

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで
特定非営利活動法人こども自然公園どろんこクラブ

1、各事業の報告

①こども自然公園自然体験施設の維持管理に関する事業

【雑木林のあるエリアの管理目標と総括】

管理目標：1、安全管理 2、生物多様性に配慮した管理 3、フィールドを安全に活用するための管理

総括：

- ・雑木林エリアの枯れ木の伐採を中心に行ない、落下枝や倒木等の危険を未然に防ぐよう努めた。特に、カシノナガキクイムシの食害が拡大しており、調査と伐採を早急に実施した。
- ・萌芽更新については、ボランティアとともに調査を実施し、データの蓄積を継続して行なった。併せて、萌芽更新エリアを効率的に回れ、オーバーユース等による人的な圧を回避するための散策路を作った（完成は 2020 年上半期の予定）。



↑カシノナガキクイムシの入ったコナラを伐採し、チップパーにて粉砕処理を行なった
←山の散策路作りの作業風景

【湿地のあるエリアの管理目標と総括】

管理目標：1、安全管理 2、管理手法の見直しと実施 3、生物多様性に配慮した管理

総括：

- ・園路に面している部分の管理作業として、①バタフライガーデンの設置②アスレ

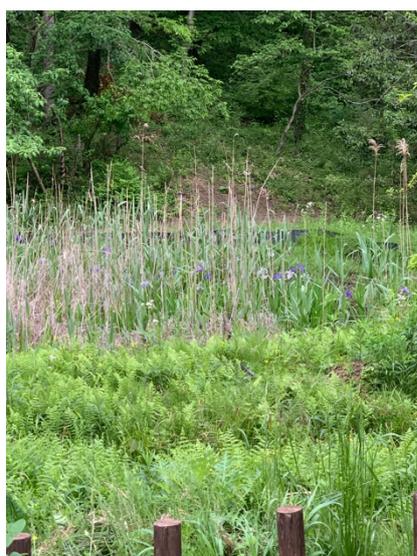
チックに向かう親子や、散歩の高齢者の往来が多い場所でもあり、見本園としての機能を持たせながら管理をするための里山ガーデン作りを進めた。

また、一昨年の緑化フェアからの移植のカキツバタやノハナショウブゾーン、古代米による湿地管理エリア（4番池、5番池）等、少しずつゾーン分けでの管理が育ちつつある。

・平成 30 年度末にアスレチック側からの流入堆積土砂の泥上げ工事を行なった、池の上流部の経過観察、記録的増水をもたらした台風の影響を考察するため、生物調査を実施した。



ノハナショウブ



カキツバタ



里山ガーデン

【水田エリアの管理目標と総括】

管理目標：1、生きものいっぱいの田んぼづくり

総括：

・どろんこの水田は、生きものに配慮するため冬の間も湛水しているが、今年度は冬期に大規模な畦工事が入り乾田となっていた。その結果、陸上性の雑草が増えた。また、水田の土がカチカチに固くなりすぎ、代かきの際に苦労した。

・また、田んぼ開始時期にどろんこ水田の横から山側水路への水抜けが発生した。水田期間中は応急処理でしのいだが、冬期に大規模な修繕を実施せざるを得なかった。工事業者の点検後だったため、こちらで修繕を実施したが、本来ならば工事ミスに相当する事態であり、今後は公園事務所と一緒に立ち合いのもと確認ができればと思う。

・生きものへの影響は、前後の調査ができておらず、詳細は不明だが、カエルの産卵は見られなかった。様々な点からも、冬期湛水はこども自然公園の水田には必要な管理方法のようだ。

【畑エリアの管理目標と総括】

管理目標：1、農薬や化学肥料に頼らない畑づくり 2、畑の整理整頓

総括：

- ・今年度も、農薬や化学肥料に頼らず、畑全体を有効に使い、いろいろな作物を育てられた。

②環境保全等に関わる調査、研究、企画、提案、実践事業

【事業の総括】

- ・雑木林の植生調査…雑木林内の環境変化をはかるため、植生調査を実施した。
- ・年間を通して野鳥観察を続けることができた。
- ・年度末には、調査データをまとめ、報告会を予定していたが、新型コロナの影響で実施することができなかった。

③地域の環境と農文化に根ざした水田、畑づくりに関する事業

【事業の総括】

- ・1年間を通して親子で水田づくり、畑づくりが体験できる年間登録コースを開催した。
- ・参加者やボランティアの力により、稲の苗や野菜の苗を作るところから体験できた。
- ・天候が不安定で、畑コース活動日が変更になることも多かったが、当初計画した作物はたくさん収穫することができ、参加者にも満足していただけた。
- ・畑コース活動では、収穫物をみんなで調理して味わうことができた。
- ・イベントの際には、一般来園者向けに作物の提供(手作りコンニャクやダイコン、小豆、サツマイモ等)ができ、喜んでいただけた。
- ・水田では、代かき、田植え、稲刈りや脱穀に至るまで人力による作業を通し、米作りの大変さを体験してもらうことができた。

④身近な自然の普及啓発に関する事業、その他

【事業の総括】

(指定管理業務)

- ・1年間を通して親子で湧水の湧く湿地や雑木林といった自然環境を活かした、**里山体験コース**を開催した。(雑木林育成のための常緑樹の間引き作業、自然の恵みを活かしたクラフト制作、湿地維持のための水田作り等)

・「どんど焼き」

昨年に続き開催し、幅広い方たちに楽しんでもらえた。特に、水田のもち米でつくった餅を、セルフで焼いて食べてもらうのが好評で、大勢の方に来ていただけた。

また、宗教色を排除するという一方で、お札等の受け入れは行なっていないが、年を重ねるごとに趣旨を理解してくださる方が増えてきた。しかし、お飾りに使用される針金やプラスチック製品の多さで、取り外すことが困難なものも多く、今後の課題として、手作り品以外の受け入れは検討すべきだという反省点もある。

・「梅の花茶屋」

梅の花の咲くタイミングに合わせて実施することができた。(2月23日開催)今年も、水田のもち米を活用した甘酒とお団子を提供した。)

・「レストハウス内の展示」

来園者の方たちが、公園の自然を知る場所として、大池にいる魚やカエルの生体展示をはじめ、パズルや木の種類について等、五感を使って楽しめるような展示を実施した。

また、今年は「子どもたちのエサやり体験」をお試しで実施することができた。好評だったため、次年度以降機会をみて継続していきたい。



「子どもたちのエサやり体験」

(指定管理業務以外の行事等)

- ・「ヨモギゼミナール」春の野草観察
- ・「さくら茶屋」水田のもち米を活用したお団子と畑の小豆から作った餡子の提供をした。(サクラの開花に合わせたため、実際には前年度の3月下旬に実施済み)
- ・「こどもの日まつり」模擬店やヨーヨー釣り等。
- ・「旭ジャズまつり」への協力
- ・相鉄100周年イベント“Yokohama Nature Week 2019”への協力
- ・旭区誕生50周年記念行事「流鏝馬祭」への協力
- ・「相鉄ロックオンミュージック」への協力
- ・「朝ごはんサミット」環境創造局、エコストーブ de 羽釜ご飯プロジェクトと連携して開催。公園管理で出た薪を使い、エコストーブで羽釜のご飯を炊き、神奈川県食材を提供する出店者さんの「ご飯のお供」協力で、盛大に開催することができた。これからも、横浜市や神奈川県と協力した、公民連携の新しいかたち

を作っていきたい。



↑ 北部公園緑地事務所ブース

その他、公園の指定管理業務で培ったノウハウを活かし、公園内外にて自然体験活動を実施した。

① 環境創造局との連携（環境学習出前講座）

5月30日（木）新橋小学校4年生

（間伐材のクラフト、草木染め、生き物観察）

6月8日（土）南本宿小学校全学年（ゲンジボタル観察会）

9月10日（火）桂台小学校2年生（校庭の生き物観察）

9月27日（金）緑園東小学校3年生（草地広場の昆虫観察）

11月6日（水）左近山保育園と地域の親子（焼き芋とクラフト）



② 旭区役所および保土ヶ谷法人会との連携（帷子川環境学習）

帷子川の環境学習を、旭区内の流域小学校へ実施した。自分たちの住む旭区を流れる都市河川の帷子川に目を向け、親しんでもらい、帷子川に愛着をもって身近な自然からいろいろなことを学んでもらおうということで10年間継続して行なっている。（5校5回実施）

③ 神奈川県との連携（環境・エネルギー学校派遣事業）

神奈川県の地球温暖化対策室が行なっている環境教室の出前授業の講師派遣を行った。（3校3回実施）

10月30日（水）藤沢市立浜見小学校1年生（辻堂海浜公園の自然観察）

11月8日（金）南本宿小学校4年生（こども自然公園の雑木林学習）

11月12日（火）不動丸小学校1年生（こども自然公園の秋探しとクラフト）



④ 近隣幼保小学校遠足の企画、提案、実施。校外学習でこども自然公園へ訪れた園や小学校への環境学習の協力。

10月1日（金）万騎が原小学校1、2年生校外学習

1月17日（金）南本宿小学校4年生（雑木林の管理作業体験）



2、 事業内容

①こども自然公園自然体験施設の維持管理に関する事業

- 内 容 公園利用者や事業参加者が安全に利用、活動できるよう、安全対策や危機管理を行なった。
- 日 時 通年
- 場 所 こども自然公園

②環境保全等に関わる調査、研究、企画、提案、実践事業

- 内 容 公園内および周辺の生物や自然環境の情報収集を行ないながら、現状に即した保全の方法を企画し提案し、生きものが豊かに生息する環境作りを行なった。
また、市民、学校、企業、行政等の依頼を受け、環境保全に関する情報提供や各種調査等の支援を行なった。
- 日 時 通年
- 場 所 こども自然公園

③地域の環境と農文化に根ざした水田、畑づくりに関する事業

- 内 容 横浜に残された数少ない谷戸田の風景や地域に伝わる農文化を継承しながら、公園内の自然の産物（落ち葉等のたい肥づくりなど）の循環を基本とした水田や畑の作業を行なった。
- 日 時 通年
- 場 所 こども自然公園

④身近な自然の普及啓発に関する事業

- 内 容
 - a、地域の自然の未来を担う世代育成のため、観察会等自然に関わる総合的な体験事業。
 - b、自然体験事業の中で生産されたものの地域還元。
 - c、ホームページやSNSを通じた情報発信。
- 日 時 通年
- 場 所 こども自然公園

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

NPO法人子ども自然公園どろんこクラブ

自 平成31年 4月 1日 至 令和2年 3月31日

【経常収入】			
【指定管理費】			
指定管理費		10,000,750	
【寄付金】			
寄付金		1,104,254	
【事業費】			
環境保全等	139,300		
水田畑づくり	201,700	341,000	
【預金利息】			
預金利息		6	
雑収益		700	
【経常収入】 合計		700	11,446,710
【経常費用】			
【活動費】			
(人件費)			
人件費	8,557,791		
退職金積立	120,000		
旅費交通費	81,383		
厚生年金、健康保険	546,100		
労働保険	41,205		
(人件費) 合計	9,346,479		
(事業費)			
物品購入費	845,829		
行事保険料	26,320		
講師謝金等	△ 556		
(事業費) 合計	871,593		
(事務費)			
通信費	162,854		
会議費	69,177		
事務用品、消耗品	889,307		
税理士報酬	259,200		
事務諸経費	342,886		
施設賠償保険	47,590		
AEDリース料	96,936		
(事務費) 合計	1,867,950		
(租税公課)			
消費税	425,400		
(租税公課) 合計	425,400		
(予備費)			
(予備費) 合計	0		
【活動費】 合計		12,511,422	
【管理費】			
経常費用 計			12,511,422
当期経常増減額			△ 1,064,712
税引前当期正味財産増減額			△ 1,064,712
当期正味財産増減額			△ 1,064,712
前期繰越正味財産額			450,513
次期繰越正味財産額			△ 614,199